

いい湯だね! 平山温泉の魅力と人気の秘密

～ただいまと言いたくなる山鹿の奥座敷に癒しの空間～



平山温泉センター

誰にも邪魔されない自分だけの温泉を見つけると嬉しい。
教えたけれど、教えたくない…。
まさに、そんな複雑な温泉ファンの心を射止めたのが平山温泉である。

山鹿の奥座敷・平山温泉。

古くから湯治場として利用されてきた温泉郷、
知る人ぞ知る山間のひなびた温泉だったはずが
このところ、人気急上昇。
マスコミで再三取り上げられ、“第二の黒川”とまで
形容されるようになった。

山鹿市街から5キロ、その道の向こうに何が
あるのだろう。
平山温泉の魅力、人気の秘密を探ってみよう。



平山温泉センター 内部



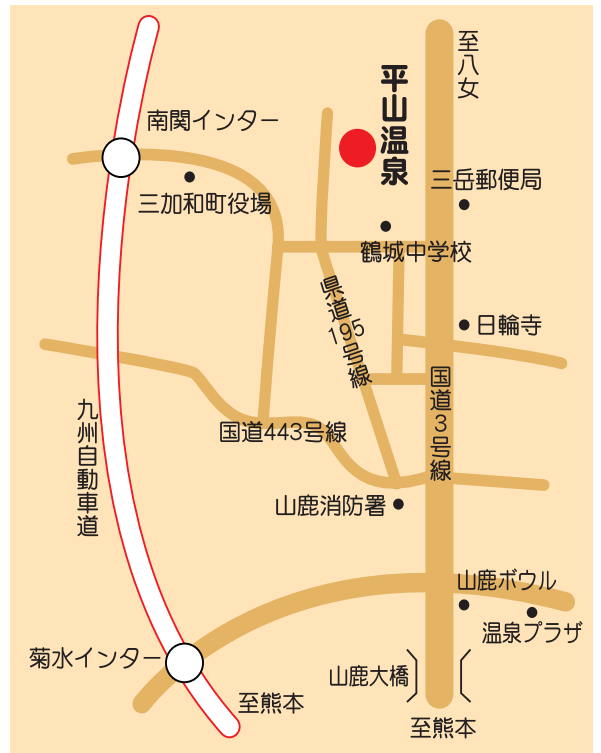
旅館の露天風呂



旅館のお風呂

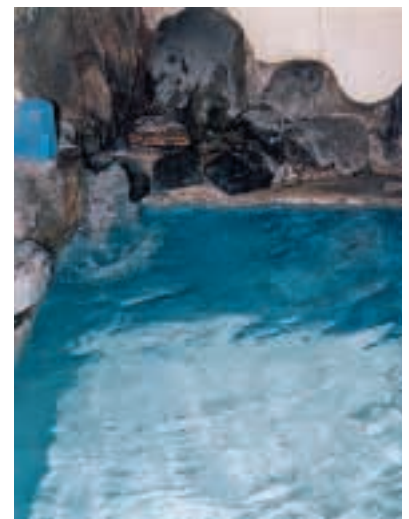
最近、テレビの旅番組や情報誌で〈おすすめの穴場温泉〉と称して、取り上げられているのが平山温泉である。やはり気になる。温泉豊富な熊本の人でも、平山温泉は「一度は行ってみたい」温泉の筆頭に上げられるほどで、温泉マニアのサイトでも上位にランクされ、「第二の黒川」と賛辞するサイトや雑誌もある。しかし、テレビや雑誌が取り上げるからと言って、それを鵜呑みにするほど客は甘くはない。いろんな温泉を体験し、温泉の情報がメディアから吸収できる世の中、日本人は何がいい温泉か、すでに知っている。平山温泉の人气が一時期の秘湯ブームのそれと違う点は、平山温泉に足を運び、温泉に入った体験、その満足感がマスコミを動かしたからである。

そう思うとますます行かずにはいられない。平山温泉の魅力、人気の秘密を探ろうと、奥山鹿へ出かけた。



熊本市内から車で約1時間、山鹿大橋を越えて国道3号線をしばらく行くと国道443号線との交差点がある。ここが平山温泉入口。左折後、すぐに県道195号線に入ると、どこか懐かしい山間の景色が見えてくる。

なぜだか気持ちいい…山鹿市街から約5キロ、そこには湯治場の面影を残す「山間のひなびた温泉」そのままの温泉郷が訪れる人を静かに待っている。



豊富な湯量と泉質の良さはピカー！



平山温泉観光協会 馬場会長



石井さん



星子さん

■ 平山温泉

【温泉の起こり】

山鹿の奥座敷と言われ、約1200年前、皮膚病が流行した時、村人が阿蘇大明神にお祈りをしたところ、一夜のうちに山を開き谷を埋めて平らになったことから「平山」と呼び、湧き出した温泉で皮膚病も良くなったという伝説が残る。また、傷ついた鶴が温泉を見つけた話や加藤清正公が汗疹（あせも）を治しに通ったという話も残っている。



平山温泉センター

【泉質】

泉質はアルカリ性単純硫黄泉。（源泉によって多少異なる）
効能は皮膚炎、リウマチ、神経痛、外傷性障害の後療法など。
お湯は柔らかく「美肌の湯」と呼ばれる。

【施設】

温泉旅館数は、16軒。立ち寄り温泉5軒。温泉街の中心に共同浴場の「平山温泉センター」がある。ここが平山温泉発祥の元湯。

入浴料	大人（小学生以上）	150円	子供（乳幼児）	50円
休憩料		600円		
泊り（二食付き）		3500円		

温泉だから、いい湯が一番！ お客さんが「ただいま」と言ってくれるんです

お話をうかがおうと平山温泉入口にある平山温泉観光協会を訪ねた。

観光協会は発足して5年、旅館の経営者などで結成されていて、旅館に関する問い合わせやマスコミ対応、イベントの主催、協力などを行っている。また、平山温泉のこれからの方向性やイメージアップを協議する大きな役割を担っている。お話をうかがったのは、温泉協会会長の馬場行成さん（奥山鹿温泉旅館）、事務局長の石井健一さん（旅館 栄楽）、星子智紀さん（旅館 かどや）。平山温泉の魅力、人気の秘密をざっくばらんに自ら分析してもらった。



旅館 栄楽

取材班 Q：平山温泉がこのように温泉街になったのはいつ頃から？

石井さん A：昭和30年代、40年前位からでしょう。
地元の方もいますが、この温泉にお客として来ていて、旅館を始めたという方も多いです。
各旅館がそれぞれ源泉を持っていて、お湯の量も豊富。温度も32℃から52℃、泉質も多少、異なりますが、この地区には珍しく硫黄泉なんですよ。



取材班 Q：旅館の歴史は意外に新しいんですね。
このところ、平山温泉がマスコミで人気の温泉としてクローズアップされていますが？

石井さん A：おかげ様でお客さんが増えましたね。
福岡のマスコミが取材に来たのがキッカケ、いわば火付け役なんです。熊本の方は近いからわざわざ来ないし、実際、福岡のお客さんが多いですね。
お客さんの層は若い方からお年寄りまで、女性の方が多いですね。



馬場さん A：特に団体さんは福岡のお客さんが多く、北九州からも観光バスでお風呂目的で来られるほどです。

取材班 Q：ズバリ！人気の秘密は何でしょうか？

石井さん A：人気の秘密と言われても実は、困るんです（笑）。
ただ田舎で温泉しかない場所なんですけど…。
やはり温泉の質が一番でしょうか。
泉質が良いのが自慢でもありますし、皆さん、とてもいい湯だとおっしゃっていただいています。最近では「源泉かけ流し」は温泉の大きな魅力の一つようです。
また交通の便の良さもあるでしょう。福岡から1時間半で来られますし、料金がリーズナブルな点もあると思います。

星子さん A：お馴染みさん（常連）が多いんですが、旅館に来る時「ただいま」と言ってくれるんです。
わが家に帰ってきてくれる感覚、それがこの温泉の良さではないでしょうか。
このまま、田舎のままの平山温泉を残してほしいと言われます。

石井さん A：温泉そのものを味わえる、いわゆる「癒し」だと思います。

特別観光する場所があるわけではありませんし、お客さんにとって〈隠れ家〉的な温泉だということではないでしょうか。

「何も無い、温泉があるだけ」「田舎をそのまま」そんな言葉が3人の口から飛び出してくる。お客が気軽に行ける敷居の低さ、奇をてらわず、温泉のそのものの良さをじっくりと味わってもらえれば、それが平山温泉の魅力という訳だ。つまり、温泉にこだわる人の本当の温泉がここにあるのである。

お客さんが「ただいま」と言って帰ってくる…この言葉が物語るように旅館とお客さんとの信頼関係は温泉を通じてしっかりと結ばれている。客としては自分だけの懐かしい〈故郷〉を平山温泉に感じているのかもしれない。

取材班 Q：マスコミが注目する前に常連さんを含め、平山温泉ファンの口コミで人気広がった？

石井さん A：そうですね。来ていただいたお客さんに満足してもらったことからじわじわと広がったと思います。

取材班 Q：「第2の黒川」と言われていますが？

馬場さん A：足元にも及びませんよ（笑）。

私たちはこれからです。これからいろんなことをやって行こうとしています。自然な形で無理せず、山奥の趣きを味わってもらうためにどうすればいいか模索しているところなんです。



旅館 かどや



平山温泉のイメージをつくりあげたい 自分たちの力でやれるものはやります。

癒しの温泉、本当に温泉を愛する人が愛する温泉、まさに今、注目の平山温泉だが、この温泉をプロデュースした仕掛け人がいるわけではない。すべては客の口コミから広がったのだから、もしこれがブームだとしたら去るのは早い。温泉協会のメンバーはそんな危機感をふまえ、平山温泉のこれからに目を向けている。

取材班 Q：春と秋にイベントを開催されているようですが？

石井さん A：平小城（ひらおぎ）の皆さんと一緒に春は3月の『菜の花めぐり』、秋は10月に『秋の収穫体験』を行っています。
地区のお祭りとしては11月28日『平小城ふれあい祭り』もあります。毎週土曜日曜、祝祭日にはJA平小城で「ひらやま湯の里市」が開かれていて、この地区で獲れた新鮮な野菜や果物、加工品を目ざしてたくさんのお客さんがつめかけます。
これも平山温泉の魅力の一つになっています。

やはり、私たち旅館の者にとって地区の方たちの協力は欠かせないものなんです。地区の皆さんと話し合い、協力しあって盛り上げていかなくてはならないと思います。お客さんが増えると地区全体が活気づきますから。



奥山鹿温泉旅館



取材班 Q：会長はこれから先、どんな平山温泉にしたいですか？

馬場さん A：旅館としては、お客さんがいかに満足するか、いろいろな工夫を凝らしているので、その日々の努力を重ねてゆくことだと思います。その一方で平山温泉の方向性を見い出せる取り組みを行うのが温泉観光協会の役目。



取材班 Q：会長のビジョンを聞かせてください。

馬場さん A：平山温泉には散歩する場所がないんです。観光名所がないので平山温泉ならではの名所をつくりあげたいですね。

例えば、平山城跡など遺跡めぐり、各旅館の温泉をまわれる温泉めぐり、料理など、いろいろなアイデアを出し合って取り組んでいきたいですね。

それも、地区の皆さんとの自治会の中で取り組んでいきたい。

もちろん、平山温泉の良さ、山奥の趣きを失わずに…。

そうしていくうちに黒川温泉のように平山温泉のイメージをつくりあげていきたいのです。

石井さん A：これから平山温泉で旅館を始める方もいらっしゃいますし、別荘地としても売りに出されていますので、平山温泉のイメージづくりのためにも、ルールづくりが大事だと思います。地区の方と旅館が話し合い、平山温泉のイメージに合ったものを造って下さるようなルールづくりです。

土地を売られる方に、これから新しく入って来られる別荘、旅館などの情報を協会に出していただき、話し合う場を設けるということです。たとえば、看板1つにも平山温泉のイメージを生かし、こだわりたいと思っています。

取材班 Q：すべて協会の皆さんでやっていけますか？

馬場さん A：協会でプロジェクトをつくり、自分たちの力でやれるだけのことはやりますよ。これからの平山温泉にご期待下さい。

いい湯、いつまでも…。

温泉を愛する人の温泉、残したい湯治場の味わい

インタビューの後、数軒の旅館でお風呂を撮影させてもらった。平日の午後にもかかわらず、温泉を楽しむ観光客がひっきりなし、立ち寄り湯の駐車場もほぼ満杯。こんな温泉見たことない、そう思った。客のどの顔にも温泉地に来たという気負いもなく、温泉を楽しんでいる。連泊の客が多いというのもうなづける。平山温泉の魅力は、温泉の歴史が育んできた湯治場の味わいが今も受け継がれているからなのかもしれない。癒し、隠れ家、平山温泉の形容詞はいろいろあるが、道行く観光客の合言葉「いい湯だね。」が一番気に入った。

■平山温泉に関するお問い合わせ

平山温泉観光協会 0968-44-0522